

平成20年3月期決算説明会

2008年5月19日

証券コード: 3753 株式会社フライトシステムコンサルティング



1. 前期の業績

(1) 単体の営業利益／経常利益

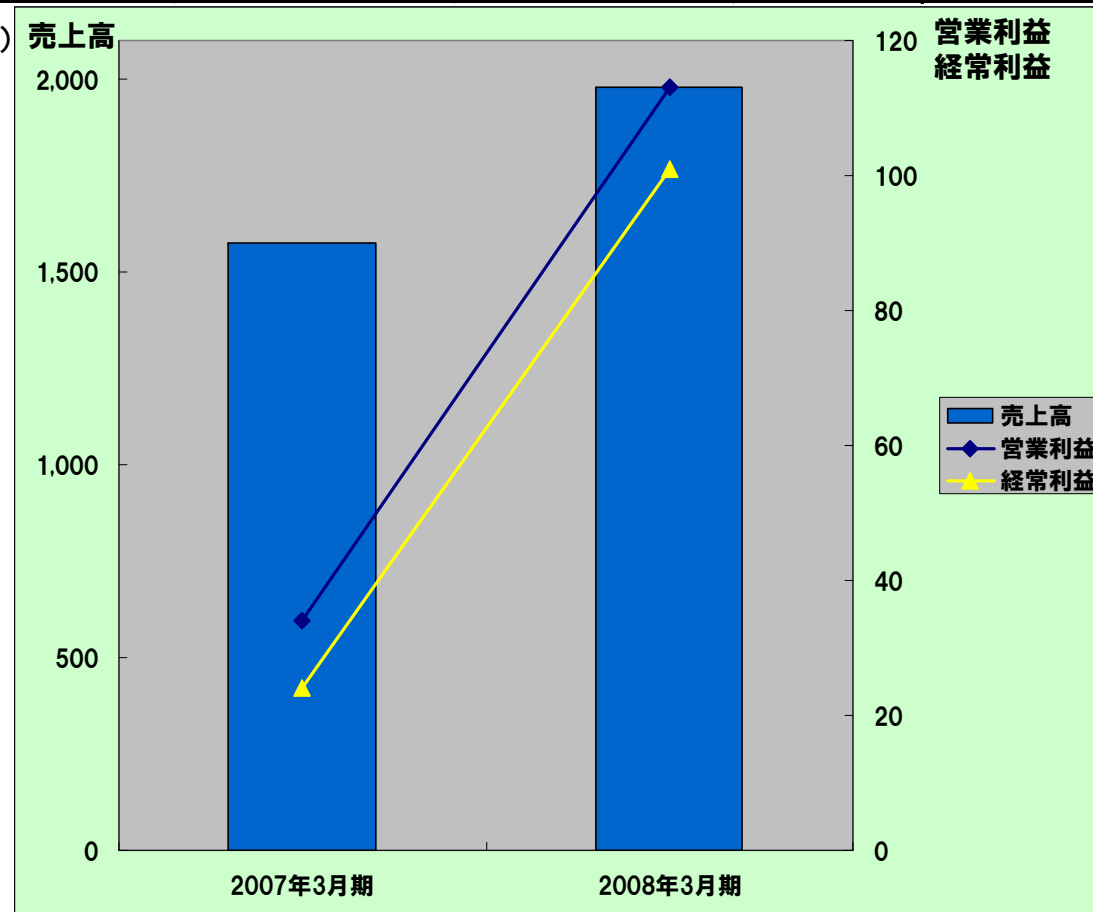


前期から大躍進！

<単体>	2007年3月期	2008年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	1,573	1,981	408	25.9 %
営業利益	34	113	79	232.4 %
経常利益	24	101	77	320.8 %

(単位:百万円)

- 事業に精通した現場責任者を両事業部門のトップ(事業部長)に据える施策が功を奏し、両事業の連携による受注が伸び、収益拡大に大きく寄与。
- 事業部長や現場のマネージャ層と社員全員が一丸となって取り組んだ成果が、経常利益1億円超の大きな要因。

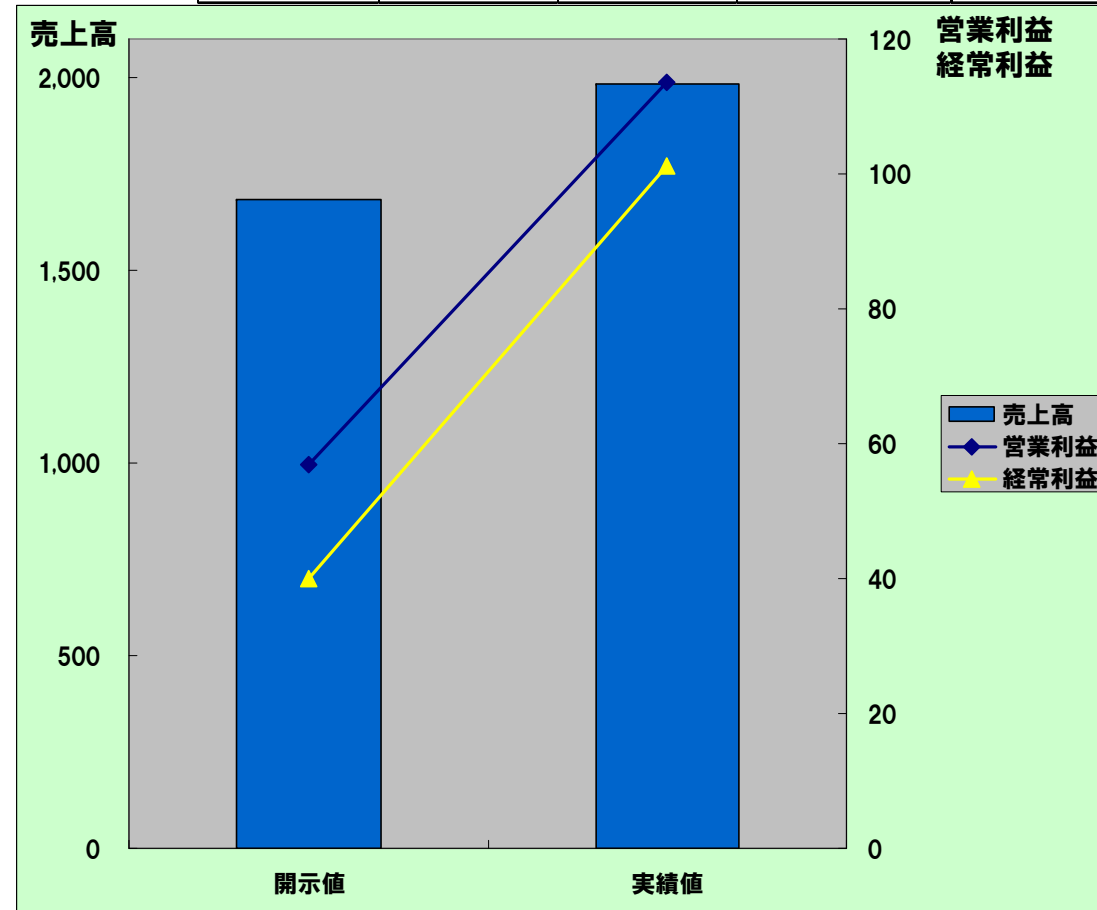


期首の開示値から も大幅な躍進！

- 最後の第4四半期に社員一人一人が追加で細かい案件を受注し、収益を大きく上方修正！

	開示値	実績値	計画値と実績値の比	
			増減額	増減率
売上高	1,685	1,981	296	17.5 %
営業利益	57	113	56	98.2 %
経常利益	40	101	61	153.1 %

(単位:百万円)



1. 前期の業績

(2) 連結の営業利益／経常利益

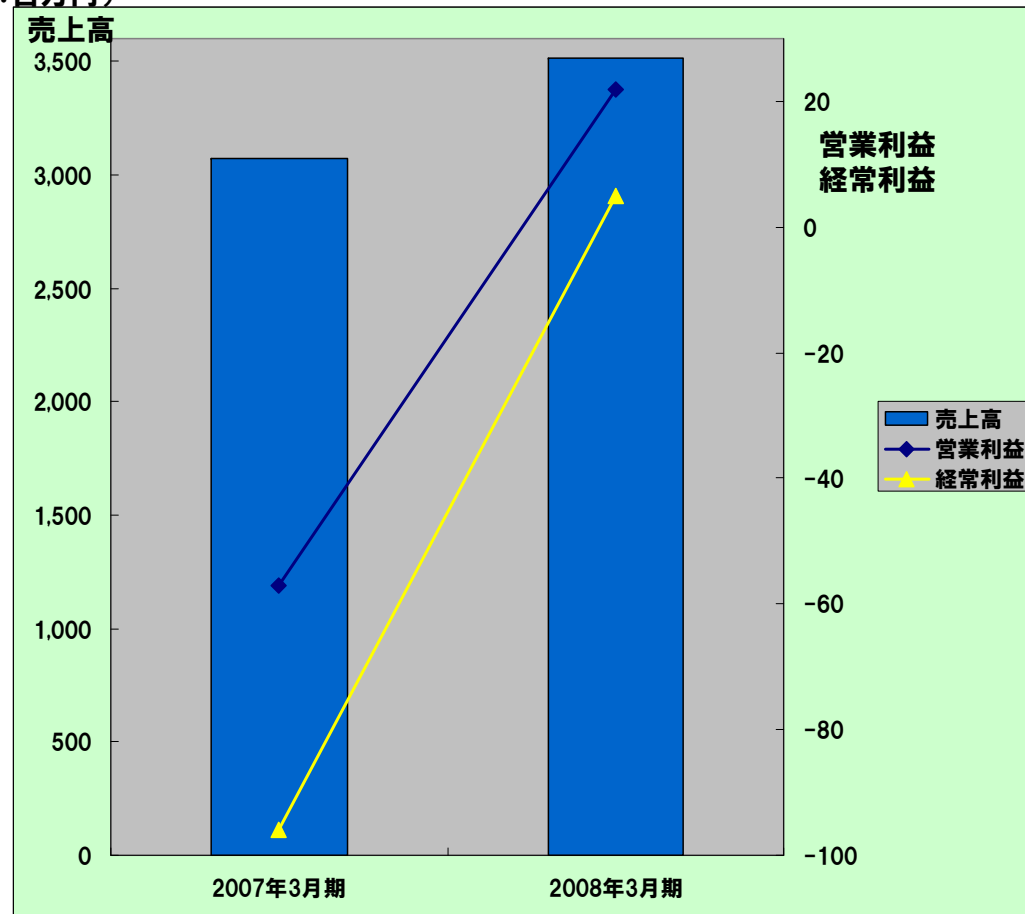


前期から1億円超の 収益改善！

- 放送・映像に関するハードウェア事業を営んでいる連結子会社2社(山下電子設計、エレテックス)の経営統合、及び物理的な工場や資材調達の統合に取り組んだ一年。
- 経営統合した新会社、YEMエレテックス株式会社の事業の立ち上がりがやや遅れ、年度内に収益化を果たすことが出来ず、営業利益、経常利益ともに目標値に届かず。
- しかし、この1年の経営統合は着実に成果の実を結んでおり、1つの会社として歩み始めています。

<連結>	2007年3月期	2008年3月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	3,071	3,514	443	14.4 %
営業利益	-57	24	81	-
経常利益	-96	5	101	-

(単位:百万円)



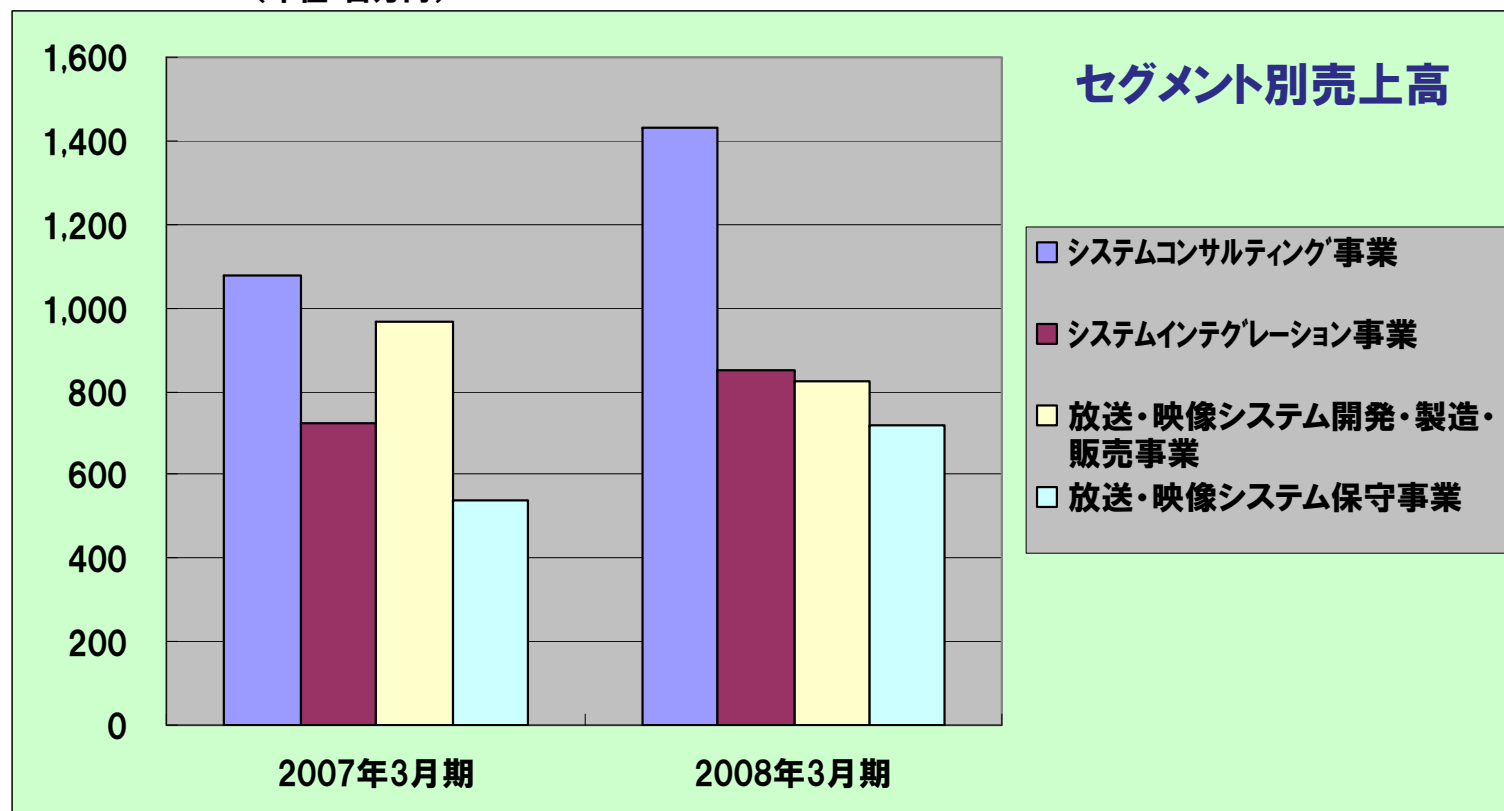
1. 前期の業績 (3) セグメント別の業績 ～ セグメント別の売上高 ～



4セグメント中、3セグメント
が大きく増収！

<セグメント別売上高>	2007年3月期	2008年3月期
システムコンサルティング事業	1,077	1,431
システムインテグレーション事業	722	851
放送・映像システム開発・製造・販売事業	964	823
放送・映像システム保守事業	536	716

(単位:百万円)



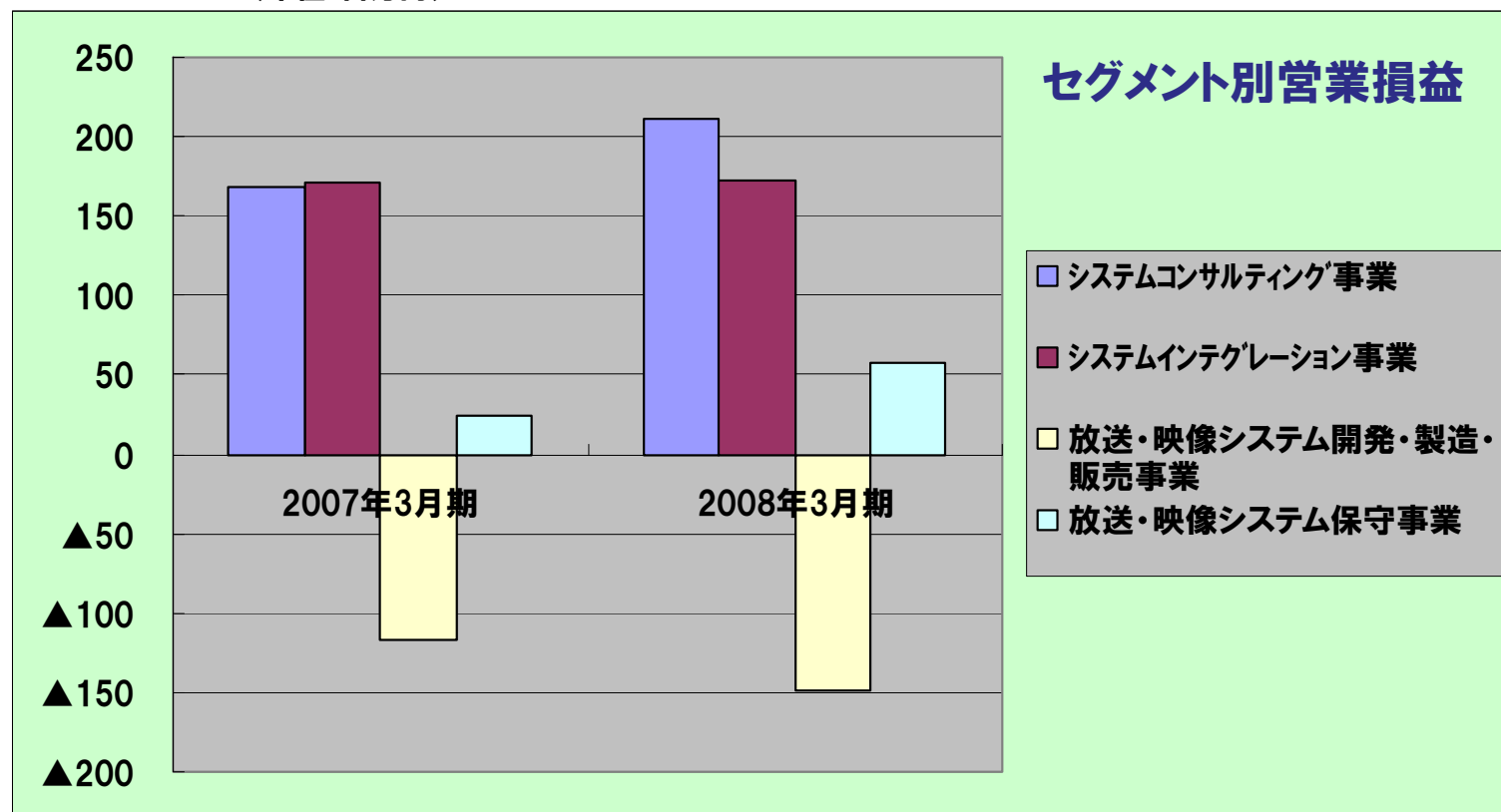
1. 前期の業績 (3) セグメント別の業績 ～ セグメント別の営業損益 ～



**4セグメント中、3セグメント
が増益！
そのうち2つは大幅増益！**

<セグメント別営業損益>	2007年3月期	2008年3月期
システムコンサルティング事業	168	212
システムインテグレーション事業	172	173
放送・映像システム開発・製造・販売事業	▲116	▲149
放送・映像システム保守事業	25	57

(単位:百万円)



1. 前期の業績 (3) セグメント別の業績 ～ セグメント別の概況 ～



[システムコンサルティング事業]

- 大手外食チェーンから受注した新規の大型プロジェクトの進捗状況が良好であったこと、また従来からのデジタルメディア系の案件に加え前期から取り組みを開始した電子自治体系の事業が軌道に乗ってきたことなどにより、大きく業績を伸ばしました。
- また、プロジェクトの管理体制が整ってきた事により、利益率の低い案件や不採算な案件が発生しなくなった事も営業利益伸長の大きな要因となりました。

[システムインテグレーション事業]

- 従来からの好調な受注に加え、システムコンサルティング事業と協調した開発案件が大きく伸びた事により、収益を伸ばしました。

[放送・映像システム開発・製造・販売事業]

- このセグメントを構成する連結子会社2社が平成19年7月1日付けで合併。それに伴う準備、及び工場統合などの事業の整理統合を行ったことにより、事業の立ち上がりがやや遅れ、計画未達となりました。

[放送・映像システム保守事業]

- 平成16年12月に同業他社から事業譲渡を受けた効果が通年寄与し、売上高、営業利益ともに前期比で大きく伸びました。

1. 前期の業績

(4) 単体／連結それぞれの特別損失について



- YEMエレテックスが、同社を子会社化した当初の事業計画を達成する水準の利益を計上するに至らなかったため、のれん代の一括償却等による減損損失279百万円を特別損失として計上することになりました

<特別損失計上額>

単体：588百万円

連結：279百万円

- しかし、連結会計年度においても当期純損失を計上することにはなりましたが、計上した減損損失は一過性のものでキャッシュアウトを伴わない損失であることから、事業には何らの支障はなく、また引続きメインバンクからは継続的かつ前向きなご支援を頂いております。
- また、上記特別損失計上後も単体、連結ともに十分な純資産が残りますので、今後の展開に不安はございません。

<特別損失計上後の純資産>

単体：218百万円(自己資本比率 15.4%)

連結：296百万円(自己資本比率 17.2%)

(参考) 特別損失の内訳

内 容		個別	連結	
関係会社株式評価損		72	—	(*1)
貸倒引当金繰入額		516	—	(*1)
減損損失				
	のれん	—	223	(*2)
	有形固定資産等	—	55	(*3)
特別損失 合計		588	279	

(*1) 関係会社株式評価損・貸倒引当金繰入額は、YEMエレテックス向け投融資の減損処理による損失で、貸倒引当金繰入額はYEMエレテックスの債務超過見込額を引当計上したものです。

なお、関係会社株式評価損・貸倒引当金繰入額は、連結決算で消去されます。

(*2) のれんの減損損失は、YEMエレテックスに係る連結上ののれん残高を備忘価額まで評価減したことによる損失です。

(*3) 有形固定資産等の減損損失は、YEMエレテックスが保有する有形固定資産等のうち、回収可能性がないと認められた部分を減額したことによる損失です。

1. 前期の業績

(5) 最終的な単体／連結の当期純利益



- 連結子会社1社の赤字、及び前記の特別損失の計上により、以下の通りとなりました。
- 特別損失が出たものの一過性のものであり、前期と比べ連結経常利益で1億円以上の収益を改善しており、実り多き一年であったと考えております。

<単体>	2007年3月期	2008年3月期
売上高	1,573	1,981
営業利益	34	113
経常利益	24	101
当期利益	-53	-530

<連結>	2007年3月期	2008年3月期
売上高	3,071	3,514
営業利益	-57	24
経常利益	-96	5
当期利益	-176	-313

2. 前期のアクティビティ

(1) 経営面



(1) - 1 アストロデザインからの追加出資と協業強化

- 当社の創業初期からの株主であり、放送・映像機器大手メーカーであるアストロデザイン株式会社様に、2007年4月、従来の5%だった出資比率を10%に引き上げていただき、約7,000万円の資金調達を実施。
- これに伴い、同社の鈴木茂昭代表取締役社長に当社の社外取締役にご就任いただきました。
- 同社とのさらなる協業を目指します。

(1) - 2 連結子会社2社の経営統合(合併)



- 連結子会社2社(山下電子設計、エレテックス)を経営統合し、新生・YEMエレテックス株式会社としてスタート。
- 大阪事業所に工場機能を集約、また資材調達も一元化。

(1) - 3 連結子会社の社名変更、事業所移転



- 放送機器・システムの保守事業を営む連結子会社、ワイ・イー・シー・リサーチは、事業拡大に伴い、株式会社トラスティ・エンジニアリング と社名変更し、また事業所を厚木市内で移転・拡張。

(1) - 4 有利子負債削減

- 子会社の不動産を売却する事などにより、前期末に比較して有利子負債を4.4億円削減！

有利子負債を
4.4億円削減！

2. 前期のアクティビティ

(2) 事業活動面 ～成長戦略の実行～



(2) - 1 MIJS への参画と Total Cluster に関する加盟各社との協業



- 国内の有力ソフトウェアベンダーが結集し、製品の相互連携を行って海外展開および国内ビジネス基盤の強化を図ることを目的に設立された「メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア・コンソーシアム (Made in Japan Software Consortium: 以下、MIJS)」へ加盟。
- 参画しているパッケージソフトベンダー様と協業して販売する事により、Total Cluster のさらなる拡販を目指します。
- MIJS加盟各社のソフトウェアとの連携を推進。
- 2007年11月19日、JASDAQ上場の(株)ビーエスピーの「A-AUTO」との連携・協業を発表。
- 2007年11月26日、(株)アプレzzoと同社の企業内に散在する様々なシステムやデータを最適に活用するデータ連携ソリューション製品「DataSpider(データスパイダー)」との連携・協業を発表。

x86/x64 Solaris 高可用性クラスターソリューション
FLIGHT Total Cluster ver.2.0



A-AUTO®



DataSpider® Servista

(2) - 2 Ruby ビジネスコモンズ(略称:RBC)の立ち上げに参画

- 永年に亘るJavaのノウハウを活用し、日本生まれの次世代プログラミング言語「Ruby」への取り組みを開始。
- この新しいプログラミング言語を活用してビジネスを広げて行く業界団体「Ruby ビジネス・コモンズ」を昨年7月31日に業界各社と創設。



(2) -3 WiFi無線LANを活用した情報配信にトライ!

- スマートフォン、iPod touch、ニンテンドーDS、PSPなど、WiFiに対応したポータブル端末が多数出ていています。
- 福岡・天神の街にWiFi無線ルータを配備してネットワーク空間を創出し、そのエリアに特化した情報発信をするというサービスの実証実験を開始しました。



※WiFi(ワイファイ)
無線で接続するネットワークの名称。

(2) -4 オープンソフトによる電子自治体共通基盤システムを発表

- 三井物産戦略研究所、野村総合研究所、電通国際情報サービスと電子自治体共通基盤システムを共同推進(2007年8月6日)
- 3社と協業し、電子自治体の共通基盤となるソフトウェアをオープンソース化し、サービス事業を開始。

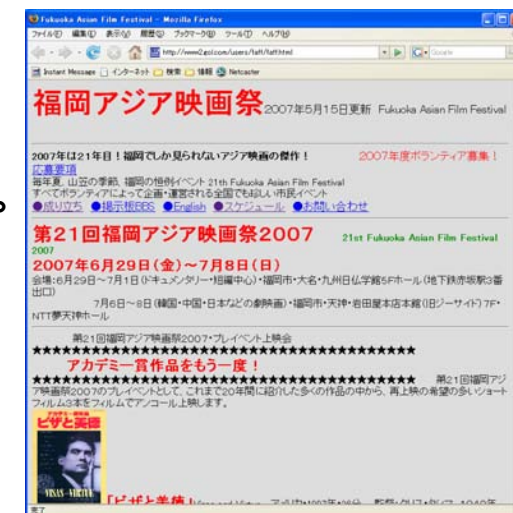


(2) -5 第21回福岡アジア映画祭に協賛 ～デジタルシネマ Hommage の展開～

- 映画業界に造詣の深いアクティブ・シネ・クラブ様と協業し、各種映画の上映で利用中。
- 第21回福岡アジア映画祭2007 に協賛。映画関係者、監督、プロデューサ等に訴求。
- 映画業界に特化したビジネススキームを業界各社と協業して検討して参ります。

(2) -6 Solaris Community for Business への参画

- 2007年11月27日、業界32社が集結し、Solaris on x86 を活用したビジネスを立上げるべく、「Solaris Community for Business(SCB)」の設立記者会見を開催。当社も参画。
- 2001年から Solaris x86 に取り組んで Total Cluster を立上げてきた当社にとっては大きなビジネスチャンス。
- RBC(Ruby ビジネスコモンズ)同様、単なる技術コミュニティではなく、ビジネスを創造するために集結したコミュニティ。
- (2) -1 の『MIJS』での活動と併せ、Total Cluster 飛躍のチャンス！



(2) -7 東北 Developers Community(TDC)設立

- 福岡で立ち上げたRBC(Ruby ビジネスコモンズ)に続き、東北地区での技術者の団体、東北 Developers Community(TDC)を2008年2月27日に宮城県仙台市で設立。
- 当社は仙台市に事業所がある事などからこのコミュニティ立ち上げに尽力し、執行役員SI事業部事業部長の和田克明が事務局長に就任。現在、このコミュニティを盛り上げるべく、中核的に参画しております。
- Javaを中心にWEB技術に関する技術者、開発会社、ユーザ企業などを集めたコミュニティとして立ち上げ、東北地方での事業の活性化を推進してまいります。

(2) -8 シンクライアントソリューションへの展開

- どこにいても安全に社内のアプリケーションを利用出来る FLIGHT Application Delivery System を発表！
- Solaris、Total Cluster を活かすソリューションとして期待しております。

フライトシステムコンサルティング <http://www.flight.co.jp>

情報漏えい、TCO削減の決定版 **Preliminary** **SECURITY**

FLIGHT Application Delivery System

FLIGHT Application Delivery System を設置するだけで、WindowsやUNIX、Linux、メインフレーム等の既存ビジネスアプリケーションがそのままWebブラウザで利用できるほか、システム全体の堅牢性と拡張性を高めることが可能になります。

アーキテクチャ (三層構造を使用)
 第一層はアプリケーションサーバ、第二層はFLIGHT ADSサーバ、第三層がクライアントです。クライアント側のWebブラウザ(もしくはネイティブクライアント)からFLIGHT ADSサーバを経由してアプリケーションが利用できるようになります。

(2) -9 株式会社イーシー・ワンとの業務提携



事業・収益としての
付加価値向上
株主価値としての
付加価値向上

- 2007年11月15日、株式会社イーシー・ワンとの業務提携を発表。
- 両社は永年にわたり Java に特化した開発を行ってきており、技術ノウハウやコンサルティングノウハウを共有することで、双方にとってより一層の付加価値の高い事業が出来ることを目指してこの提携を推進してまいります。

(2) -10 株式会社アイ・ビー・イーとの包括的業務提携

- 2008年2月15日、株式会社アイ・ビー・イー(本社・東京、代表取締役社長・坂井裕、東証マザーズ、以下、IBE)と、包括的な業務提携に合意し、業務提携契約書を締結。
- 当社はこれまで、地上デジタル放送関連を始めとした各放送局のデジタル化に関するコンサルティングや開発、システム構築を事業の柱として行ってまいりましたが、放送分野以外のデジタルメディア領域(インターネットサービス等)における事業展開においては、他社とのアライアンス等による営業基盤の拡大策を検討してまいりました。
- 本業務提携は、当社及び放送・映像機器に関連する事業を営む連結子会社の持つノウハウとIBEの持つノウハウを活用し、インターネット事業者や官公庁、教育関連などのお客様に対し、付加価値の高い提案活動を展開し、良質の案件を受注するとともに、受注後においても両者の強みを活かした案件対応を行うことにより、両社の企業価値の一層の向上を図ることを目的としております。
- 両社の得意分野を活かして共同で新規商談の提案活動を推進し、また、受注後の案件対応も共同で行ってまいります。

3. 新年度の事業計画

(1) 新年度のテーマ



新年度のテーマは『ALL FLIGHT』

フライトシステムコンサルティング(2事業部)

YEMエレテックス

トラスティ・エンジニアリング

の3社・4事業ユニットが力を合わせて事業拡大に尽力してまいります。

3. 新年度の事業計画

(2) 概況



当期末にYEMエレテックスののれん代を一括償却している事から、今後はこのれん代の償却負担が発生せず、より利益の出る体質になっているものと考えております。

<単体>

- 引き続き堅調な伸長が見込めます。中途採用も好調で、外注費抑制による粗利益率向上も見込めます。

<YEMエレテックス>

- 2期連続で赤字を計上したYEMエレテックスも、この1年で仕込んできた製品の投入や設計から製造に至るまでのプロセス改善による利益率改善により、新年度は黒字化を目指して進んでおります。
- YEMエレテックスはこの新年度、大手メーカーにOEMする新しい製品が立ち上がる予定です。同社の販路によるワールドワイドな売上に期待をしております。

<トラスティ・エンジニアリング>

- 保守事業を営むトラスティ・エンジニアリングにつきましては、保守事業の性格上、おおよその売上・収益は期首に読めるため、新年度も確実に収益を上げていくと考えております。

3. 新年度の事業計画

(3) 業績予測値



- 本予測値は保守的に見積もった業績のボトムと考えており、この数字からさらに積上げ、上方修正を出せるよう尽力していきたいと考えております。

単位:百万円

<単体>	2008年3月期	2009年3月期
売上高	1,981	2,000
経常利益	101	100

単位:百万円

<連結>	2008年3月期	2009年3月期
売上高	3,514	3,600
経常利益	5	100

3. 新年度の事業計画

(4) 事業計画達成に向けて

(4) - 1 執行役員制度の導入

- 前期、コンサルティング事業部及びSI事業部では、事業現場に精通した現場の長を事業部長に据えて経営機構改革を進めた結果、大幅な収益拡大を実現することができました。新年度は更なるビジネス規模拡大を考え、執行役員制度を導入し、業務執行体制の強化を図り、ビジネスの加速していきたいと考えております。

(4) - 2 積極的な人員採用

- 前期、各種業界団体へ中核的に参画し技術者の輪を大きく広げたこと、そしてその活動によるマスメディアへの露出が増加したことにより、人員採用が非常に好調です。新年度がスタートしてまだ1ヶ月ですが、コンサルタントを中心に予定を大幅に上回る採用ができています。それも人材紹介会社経由ではなく、自発的な応募が増えており、当社の活動を理解した上で積極的にやりたいテーマを持つ優秀な人材が集まっています。
- 当社のビジネスは人材が生命線です。優秀でアグレッシブな人材が集まってきているいま、まさに当社にはビジネス成長の大いなるチャンスがあると考えています。
- 今期は今後も積極的な採用を推し進めてまいります。応募状況は非常に活況であり、引き続き優秀な人材の確保を見込んでおります。
- そしてその採用増の成果として、前期に比べ外注費を抑制する事が可能になり、利益率も改善されると考えております。

採用が好調です！

(4) 事業計画達成に向けて

(4)-3 『天神・大名WiFi化協議会』の立ち上げ

- この1年の業界団体での活動の成果の1つが、福岡・天神の街に無線ネットワークを張り巡らせての情報配信の実証実験です。
- この成果が実り、『**天神・大名WiFi化協議会**』が福岡市で立ち上がりました。当社はこの設立準備に中核的に参画してまいりました。この協議会をこれからも支え、当社を含めた地域の関係各社のビジネスにつなげてまいります。

天神・大名WiFi化計画 - Mozilla Firefox

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 履歴(S) ブックマーク(B) ツール(T) ヘルプ(H)

http://www.kyushu-wifi.net/index.html

Instant Message インターネット 検索 情報 Netcaster

つなげる、つながる天神WiFi
TENJIN WiFi
天神・大名WiFi化計画

お問合せはコチラ
info@kyushu-wifi.net

WIFI化協議会とは? プレスリリース オフィシャルブログ Tenjin WiFiの楽しみ方 FON設置状況(MAP)

WIFIを利用して、つなげる、つながるコミュニケーション

最新情報

どんたく会場でチラシを配布します。
May 01, 2008 04:22:50 pm

天神・大名WiFi化イベント開催
April 11, 2008 10:42:00 am

活動趣旨

天神・大名WiFi化プロジェクトとは、天神・大名を愛する仲間達を中心となって、この一帯をWiFi化したり、情報を発信したりすることで、もっともっと楽しい天神・大名にしよう！というプロジェクトです。福岡県・福岡市・Fukuoka Now・AI Vision・天神FMなど、色々な方の協力も得て、日々成長しています。FON社から提供された無線ルーター200台を武器に、日夜設置班がFONルーターを設置し、コンテンツ班がコンテンツを考え、情報班が情報を集め...福岡・九州・日本、さらには、それを飛び越え、世界の皆さんに、天神・大名の魅力をもっともって伝えたいと考えています。まずはWiFi環境を体験してみてください！そして発信する情報もふれて下さい！一緒に天神・大名を盛り上げたい！情報発信したい、設置場所を提供したい、コンテンツを作りたい！そんなあなたには、こちらへアクセス！みんなでこの環境を使って、大いに集い、大いに遊んじゃいましょう！
主役はあなたです！

FONのご利用について詳しくはコチラ

英語 韓国語 多言語対応!

お電話でのお問合せはコチラ 092-641-8230 ((株)フライトシステムコンサルティング内)

WIFI化協議会とは? | プレスリリース | オフィシャルブログ | Tenjin WiFiの楽しみ方 | FON設置状況

Copyright (C) 2008 天神・大名WiFi化協議会. All Rights Reserved.

天神・WiFi化協議会とは？

天神・大名WiFi化協議会とは、天神・大名WiFi化プロジェクトを検討・協議し、WiFi化と関連コンテンツの管理・遂行を行っている任意団体です。

所在地:福岡市東区馬出2-1-7 福岡ことぶきビル2F

設立:平成20年2月

電話お問合せ先:092-641-8230

(株)株式会社フライトシステムコンサルティング 福岡営業所内

代表お問合せ先メールアドレス: info@kyushu-wifi.net

取材お問合せ先メールアドレス: publicity@kyushu-wifi.net

事務局長:杉山 隆志

当社、執行役員コンサルティング事業部
事業部長

広報担当:松前

(4) 事業計画達成に向けて

(4)-4 Ruby をビジネスに!

- この1年に参画した業界団体の1つ、Rubyビジネスコモンズ(通称:RBC)での活動は、前ページの『天神・大名WiFi化協議会』の活動とも密接に絡み、活発化してきています。
- Ruby という新しいプログラミング言語を活用してビジネス領域を広げていこうというのがこの団体の活動ですが、大手SI事業者でも Ruby の優位性を認め、活用を始めるところが増えてきています。
- 我々はそれらのいまから Ruby に取り組もうとする大手企業に対して 1年以上のアドバンテージ を持っています。
Ruby を積極的に活用し、ビジネスにつなげていきたいと思っています。

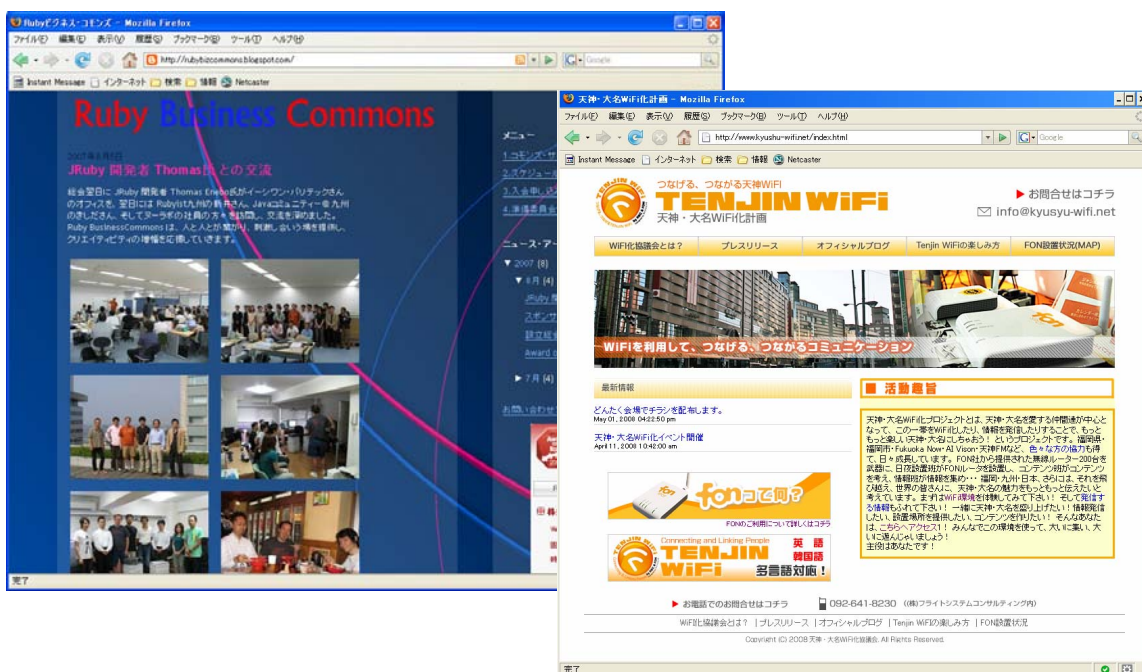
SI事業部は **Ruby** に
積極的に取り組んでいます!

Rubyist 増殖中!



(4) -5 天神・大名WiFi化協議会、RBC、そして その先のリアルビジネスへ向かって！

- 天神・大名WiFi化協議会、RBCなどの流れに沿って新たなビジネスを創り出すための新組織も近日中に新たに1つ発足する予定です。この新組織体を軸に新しいビジネス領域を広げてまいります。
- 新しいテクノロジー、新しいコンテンツ作成手法、新しい通信手段、新しいアライアンスを軸に、新しいビジネスを生み出すべく活動してまいります。



4. 私たちの将来

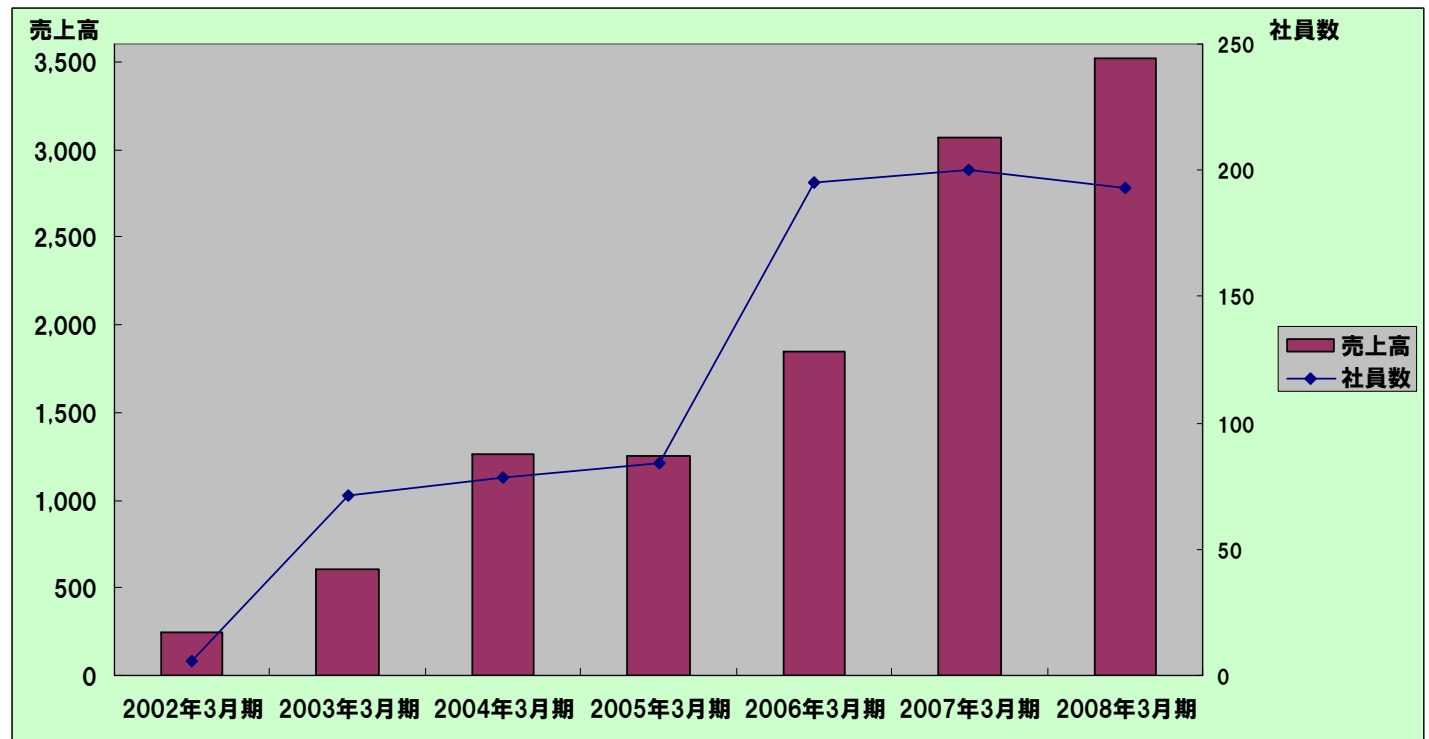


6年前には6人だった私たちは、いま全国に5拠点、グループ総従業員数 200名の体制となりました。

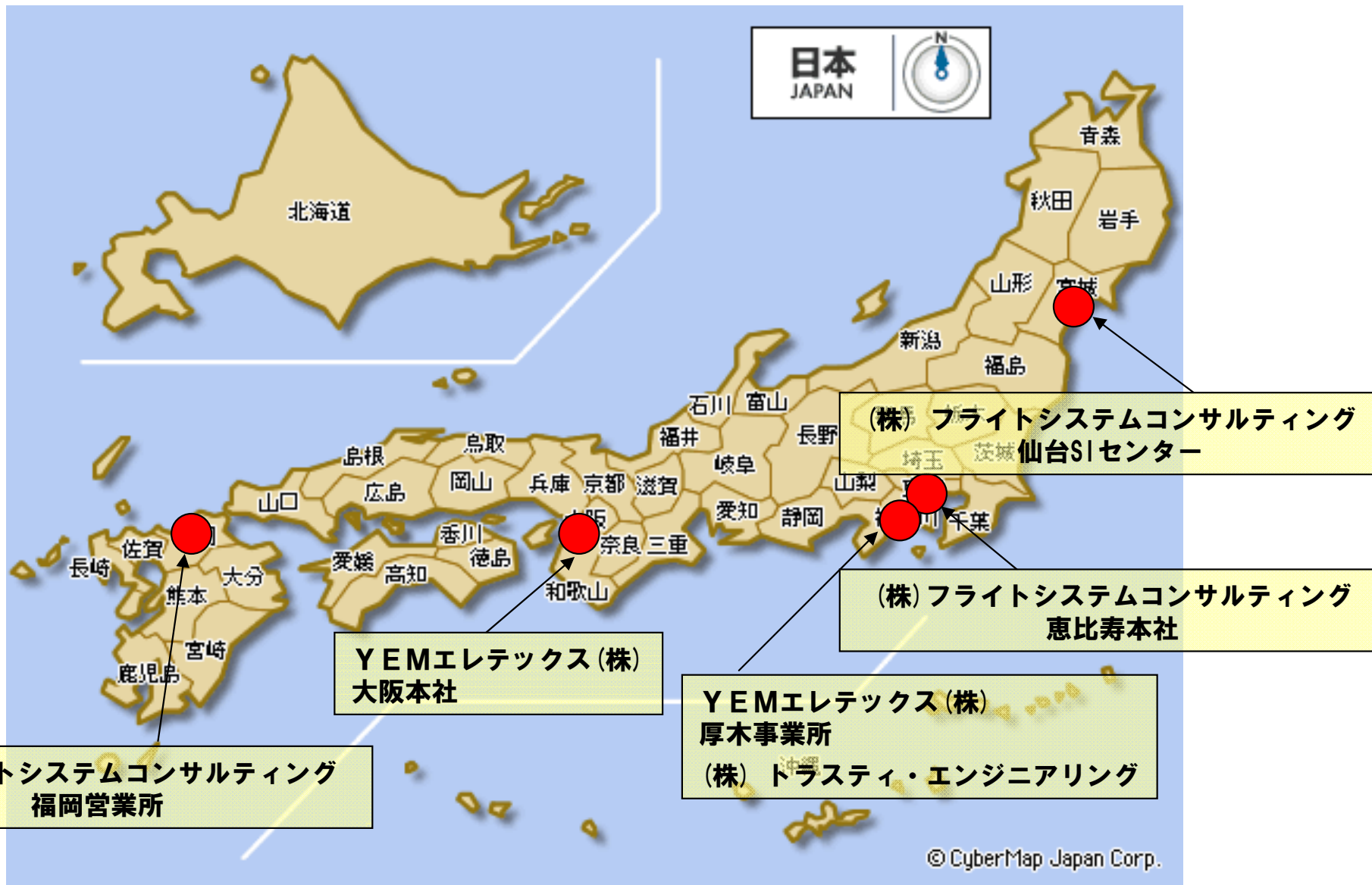
売上も6年前にはわずか2億円程度だったものが、いまや連結で35億円を超える規模になりました。

(単位:百万円)

	社員数	売上高	経常利益
2002年3月期	6人	246	34
2003年3月期	71人	607	40
2004年3月期	78人	1,260	128
2005年3月期	84人	1,249	4
2006年3月期	195人	1,843	21
2007年3月期	200人	3,071	-96
2008年3月期	193人	3,514	5



～ 会社・事業所 マップ ～



～ 新年度もアクティブに活動します！ ～



- 6月5日に東京ミッドタウンで開催される「Solaris Innovation Forum 2008」で講演予定。Total Cluster のビジネスを加速！
- 福岡営業所が急拡大！ 2007年4月にはわずか2名だった営業所が、現在10名体制。事務所も拡大しました。福岡県域のビジネスを益々加速してまいります。
- YEMエレテックスが米国NAB SHOWに出展！



～ 未来へ向けて… ～

FLIGHT

ALL FLIGHT をキーワードに、シナジー効果のある連結グループとしての経営を行い、ここから3ヶ年で一つ上の市場へ移行できるように、全社一丸となって頑張ります！

上の市場へ！

FLIGHT

株式会社フライトシステムコンサルティング



YEMエレテックス株式会社



株式会社トラスティ・エンジニアリング

お問い合わせ

- **IRならびに本資料に関するお問い合わせ**
 - **IR責任者:** 取締役 松本 隆男
 - **IR担当者:** 執行役員管理部長 金(こん) 浩樹
 - **E-Mail:** info@flight.co.jp
 - **電話:** 03-3440-6100
 - **ホームページ:** <http://www.flight.co.jp>

本資料について

本資料は、平成20年3月期決算の業績について情報提供することを目的としたものです。本資料は、平成20年5月15日現在のデータに基づいて作成しております。本資料に記載した予測値や情報は、資料作成時点の当社の判断です。情報の正確性、完全性を保障するものではありません。また、今後予告なしに変更することがあります。